

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市米湊855番地11
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*歳を取っても、障害があっても、認知症になっても誰もが大切にされ安心して暮らせるグループホームを目指して人との関わりや会話を楽しめることを大切にしています。\*自分の力を発揮できる場や、楽しみを見つけることができるよう支援しています。\*ご利用者同士が馴染みの関係になれるよう、さり気なく支援できるよう配慮しています\*ご家族や地域の方との繋がりを大切にしています。\*医療との連携を大切に、家族と相談しながらできるだけグループホームで穏やかに過ごせるよう努めています。\*季節を感じたり、自然との触れ合いを大切にしています。\*スタッフ 皆で、共に成長できるよう、助け合って学んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

9年前に伊予市の中心地に開設された事業所は、屋上から海を眺めることができ、家族や近所の方を招いて花火見物をしたり、近隣の農業高校の生徒と一緒にプランターで野菜を育てたりしている。近くには母体施設である医療機関があり、日常の健康管理や急変時にも安心できる環境が整っている。今年に入り管理者や職員の異動を含めた交代もあったが、「共に育つ」という目標のもと、管理者と職員が一丸となって、利用者の尊厳や自立を大切にしながら、居心地の良い事業所作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよA棟

記入者(管理者)

氏名 高橋 知子

評価完了日 平成 24 年 10 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を玄関やフロアー、A棟B棟掲示板に貼っている。理念を元に「共に育つ」を目標に掲げ、利用者・スタッフ共に笑顔で過ごせるよう、会議や朝のミーティング等の中で繰り返し確認して実践できうるように努力している。スタッフひとり一人も、自己目標を掲げ取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人の理念である「悔いの残らないお世話をさせていただきます」をもとに、「共に育つ」という事業所目標を掲げ、それに沿った個人目標を立てケアに取り組んでいる。ミーティング時に振り返りを行い、個人目標については随時管理者と一緒に評価を行いながら、日々のケアに反映させるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご近所の方への挨拶を心がけている。町内会や行事へもできるだけ参加している。事業所の入口に掲示版を置き、ご利用者の生活の様子をお知らせしている。掲示板を見た方や、散歩中出会った方に声をかけていただく。地元高校生のボランティアが定期的に訪れ、ご利用者との交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 道路に面した事業所の掲示板に行事写真等を張り出すことで、近隣とのコミュニケーションを図っている。自治会に加入しており、地域の情報は回覧板や運営推進会議等を通して得ることができる。町内の行事には積極的に参加するようにしているが、日常的な交流が一部の特定の利用者に限られており、事業所側からの積極的な働きかけを現在模索中である。</p>	利用者が共に暮らす地域の一員であることを理解してもらい、事業所を身近に感じてもらえるように、地域の人々を事業所の行事に招待するなど一層交流を持つ取組みに期待したい。災害時等における協力関係づくりにつなげることも望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議、行事・ボランティア等で気軽に入ってもらえる機会を作り、機会あるごとに認知症についての情報を提供し、認知症の理解に繋がるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご利用者の生活の様子を写真やエ ピソードで伝えている。出席した方からは、地域の 様々な情報を頂いたり、地域の中でグループホームが 果たせる役割について助言を頂いている。意見や質問 については次回までに検討してお答えしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は民生委員や市職員、老人相談員、消防 士など様々な方に参加を呼びかけ、意見交換がされて いる。交替で職員が参加し、会議で得た助言を検討す るなどサービス向上に活かす努力をしている。議事録 が簡略化されているため会議内容の確認が難しいもの となっている。</p>	<p>わかりやすい議事録を作成し、参加できなかった関係 者にも会議の内容が理解され共有されることを期待し たい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加してくださ る。その場でグループホームの様子を伝えている。月 に1度、グループホームの入居状況・待機者数を報告 している。市が開催する会議・研修についても積極的 に参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは運営推進会議で意見交換する以外にも、 日頃から電話等で質問や相談を気軽にできる関係がで きている。地域包括支援センターとは、センター主催 の研修会に参加したり、利用者家族の困難事例を相談 するなどいつでも相談できる良い関係が構築されてい る。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全体に対し、「身体拘束」について勉強会を行っ ている。認知症の理解や介護技術の向上が身体拘束を しないケアに繋がると考えている。身体拘束をしない ケアを目指して勉強会を重ねている。玄関はオート ロックになっているが、ユニットいよ内は、解放して いる。</p> <p>(外部評価) 定期的に職員間でマニュアルを見直し、身体拘束に関 する勉強会を実施するなど、利用者にとって自由な暮 らしとは何かについて職員間で常に話し合う機会を設 けるよう努めている。骨折後安静が必要な利用者に対 して、医師の指示のもと安全ベルトを用いて安全面の 確保を行った事例があるが、利用者や家族と話し合い 同意を得た上で実施した。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止についてのマニュアルを作成している。自主的な勉強会にて知識を得る機会も設けている。又日々のケアの中で気づいたことや困っていることを職員間で気軽に話合える雰囲気を大切にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在活用はしていないが、必要があれば相談に乗れるよう、相談機関の確認や制度についての勉強の機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学時や入居前の面談時、契約時となるべく複数回にわたり説明をする機会を設けている。十分に契約書の内容を見ていただけるよう時間かけ、質問等にも丁寧に答えられる時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時・運営推進会議・ケアプラン見直し時等、個人のアルバムを見ていただいたり、職員が直接、ご利用者の様子や相談ごと等を伝える時間を取って家族からの要望等も聞きとっている。遠方の御家族にも電話で連絡・相談を行い、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 面会時に家族が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。また個別に写真入りの面会ファイルを作成したりホームだよりを送付する等、利用者の様子を伝え家族から意見や要望を聴取するようにしている。今後は家族会の設置を検討しており、家族が意見を出しやすい環境作りに取り組む予定である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回の会議や、朝のミーティング等で意見を出している。意見・相談等は随時、ホーム長・管理者に言ってください、と日頃より伝えているので直接ホーム長・管理者に伝えてくれることが多い。必要に応じ部長又は職員間で検討している。	
			(外部評価) 日頃から管理者やホーム長、副ホーム長は「共に育つ」という目標を念頭に、職員の気持ちを理解し積極的に声をかけ、何でも言いやすい関係を築く努力をしている。法人の事務所が事業所の3階にあり代表者が訪れる機会も多く、また法人全体の管理者会が設けられているため、管理者や職員の意見をスムーズに運営に反映させる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者・ホーム長が職員の状態を把握し、職員個々がやりがいを持って向上していくよう常に部長・代表者とコミュニケーションを取りながら職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加したら勉強会を開いて職員間で共有するようにしている。個人の力量に合わせて日頃のケアの中でも相談を受けたりや介護技術の指導を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修時の機会を大切にしている。相互研修に毎年参加しており、研修後の勉強会を行い職員皆で共有している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談を丁寧におこない、入居に至るまでの本人・家族の心配や不安を確認して、入居までに解消できることは家族と十分に相談している。本人のこれまでの生活について情報を大切にしながらも、現在の本人の生活が安心できるものになるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や介護内容、家族の気持ちに配慮しながら十分にお話を聞く時間を取り、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当のケアマネージャーさんから詳しい情報を頂いて、一緒に検討して頂いている。家族等が直接申し込んで来られた時は、できるだけ時間を取って丁寧にアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔話や、子育ての話、地域の慣らわし等普段の話の中でも年長者としての知恵を教わっている。共同生活をする上で、ご利用者同士の人間関係が上手くいくよう助けていただいていることを感謝している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は本人にとってかけがえのない人である。本人を家族と一緒に支えているという気持ちを常に持ち、家族とのコミュニケーションを大切にしている。本人と家族それぞれの気持ちに配慮しながらも、お互いの関係を大切に思って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人との会話の中で、連絡を取りたい人や馴染みの場所を知り、家族の協力も得て少しでも関係が保てるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者が大切にしていた場所や人等について、家族から話を聴いたり、利用者との日常の会話から汲み取ったりしながら把握するよう努力している。商店街が近くにあり買い物や行事に参加した際に、馴染みの人から声をかけてもらうことも多い。家族の協力を得てお正月に外泊したり、知人が面会に来たりと入居前の馴染みの関係を継続させるための働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と関わることを大切に思っている。気の合いそうな方が、馴染みの関係になれるようさり気なく支援している。ご利用者同士が馴染みの関係になることでグループホームがさらに安心できる場所になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、家族からの要望があればできる限り相談・支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時には本人の思い・家族の思いを丁寧に聴きとるようにしている。日々の暮らしの中でも、本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。家族と相談して少しでも実現できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は、表情から読み取ったり、日常の会話から汲み取ったりしながら把握するように努めている。重度化が進みコミュニケーションが困難になりつつある利用者は、どのような暮らしをしていきたいかを利用者本位に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に丁寧に聴きとるようにしている。入居後もセンター方式を利用して情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録、朝・夕の申し送り時の情報の共有、毎月のケアプランの評価、半年ごとのアセスメント更新により情報の把握と共有に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者が毎月の評価を行い、ケアプラン作成時も参加している。家族には面会時、遠方の方は電話等で日々の生活の様子や課題、要望等について連絡・相談することを大切にしている。主治医とも連携して意見を頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者の思いや意向は、日頃の関わりの中から十分に把握し、家族からは面会時に聴取し介護計画に反映させている。計画は、毎月のカンファレンスで見直しを行いながら、常に利用者本位の計画になるよう留意している。また、介護目標等を日々の記録の中に明記することで、いつでも確認でき日々のケアに活かすことができている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録にケアプランの要点入れて、毎日ケアプランを意識できるようにしている。1ヶ月の記録を見直してケアプランの評価をしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人にとってよりよい支援、家族の要望を支援する為に、家族と何度も相談して柔軟な支援ができるよう対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の理容室の散髪ボランティア、民生委員・老人相談員の方から地域の行事の知らせや誘いを受け参加している。(地区の避難訓練・サロン活動・散歩時の挨拶や会話)</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族が受診に同行できない時は、前もって現在の状態 等について家族と情報交換し、家族の意向も十分に把 握するようにしている。家族のみの受診時には、日常 の生活ぶりや状況の変化等について文章にし、家族に も確認して頂き、主治医との連携に努めている。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続したり、協力機関からの 往診を受ける等、利用者や家族が希望する医療機関に 受診できるように対応している。受診支援は原則家族 に依頼するが、必要に応じて事業所が対応する場合も あり、受診内容については必ず家族と共有するよう にしている。訪問歯科診療も受けており、定期的に歯科 衛生士による口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の気づきや情報は、申し送り時やケアノートで共 有している。訪問診療時は、十分に時間を取っていた だき看護師・主治医と情報交換している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、十分な情報を提供し、入院後も家族・看護 師・主治医との連携を大切に考え、病院に出向いた り、電話で、ご利用の様子を伺ったり、ご家族の意 向を確認して情報交換している。退院時は、病院に出 向き、退院時の情報提供を直接受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化した場合のあり方についてご家族の意 向を聞くようにしている。その後も、状態に合わせて 主治医との連携を大切にし、主治医と家族と事業者が 十分に話合える機会を大切にしている。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期の対応について、看取りの指 針をもとに契約の際に利用者や家族へ説明している。 今まで看取りの希望者がなく終末期ケアの経験はない が、今後に備え外部研修に参加するなど準備をしてい る。	終末期ケアについては不安に感じている職員も多い。 母体施設である医療機関や法人内の他事業所での事例 を活用して勉強会を行うなど、少しでも不安が解消で きるよう今後の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の研修は順次参加している。研修内容を職員間で共有している。緊急時対応マニュアルを見て職員が直に対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を、消防所・市役所・地域の方の指導・協力・意見を頂きながら行っている。運営推進会議では防災についての意見交換も頻繁に行っている。日頃よりご近所の方とのコミュニケーションを大切にしている。グループホームの様子を理解して頂いている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練を実施している。運営推進会議の中で地震や津波を想定した避難訓練を実施したり、議題として取り上げ話し合いを行うことでどの職員も防災を常に意識している。また、地域も防災に力をいれており、様々な助言を得ながら適切な対応を検討している。水や米、乾パン等の備蓄や笛、メガホンなども準備している。	近隣住民に事業所の実情を知ってもらう機会を設けることで、災害時の協力体制作りに繋がることを期待したい。また、全職員で共有するために災害ごとの対応マニュアルの整備も望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者が安心して笑顔多く過ごせることを目指し、職員皆で接遇について学んでいる。まずは職員全員が笑顔で気持ちの良い挨拶ができることを目標にしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら、その人に合わせた声かけやケアをしている。また個別ケアファイルを活用し、利用者の状況を随時確認して、全職員が利用者の人格を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けるようにしている。その中からご利用者の思いや希望を聞き取るようにしている。ご利用者によって選択肢を配慮し「選択する」機会がより多く持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の声をよく聞くようにしている。また、声の裏にある気持ちも察しながら、本人の希望を押し量って支援している。できるだけ、安全に注意しながらも、ご利用者が自分のペースでできるようゆとりを持って見守っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時など特別な日の装いは、ご本人の希望も聞きながらご本人が笑顔になる装いを一緒に選んでいる。定期的にご本人の希望も聞きながら、ネイルカラーのお手入れを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々のメニューについて皆で確認して楽しみにしている。好みを聞き、行事食などに取り入れている。野菜の皮むき・台拭き・お盆拭き・食器洗い等、できることを一緒にやっていただく機会を大切にしている。必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。	
			(外部評価) メニューに偏りがなく栄養面のバランスを考えた食材の宅配を利用している。近隣住民や家族から届けられた季節の野菜等をメニューに加えることもある。利用者個々の力を活かしながら準備や後片付けを一緒にすることで、利用者自身の自信や張り合いに繋げている。誕生日などの行事食も取り入れ、食事に楽しみが持てる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量、水分量が分かるように記録にも工夫している。個々の食べる量、食事の形態にも配慮し、食べている様子を常に把握している。食事療法が必要な方は主治医に相談しながら進めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 昼・夕は必ず口腔ケアを個別に行っている。朝食後も臥床する方は必ず行っている。訪問歯科診療にて全員の方の口腔内を見て頂いている。必要な方は、その後も継続して専門的なケアを受けている。定期的な歯科衛生士の訪問により、スタッフも口腔ケアについて勉強している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) できるだけ、トイレでの排泄ができるよう、声掛・誘導している。状態を見ながら昼間はオムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへと変えて過ごせるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者ごとに排泄チェックを行い、排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。排泄方法については、朝のミーティングやカンファレンス等で話し合いながら、利用者一人ひとりに応じた適切な方法を検討している。居室でポータブルトイレを使用する場合には、直接人の目に触れないように布を掛ける等の工夫をし利用者の尊厳を大切にしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便チェック表を作り、排便の状態が直に把握できるようにしている。医師・看護師に相談しながら、個々の状態に応じて、水分量・食事内容・運動・服薬等を配慮している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日、朝から16時頃まで入浴の時間を取って、個々の体調や状況に応じてゆっくりと入浴して頂いている。服の着脱や入浴動作もできることはゆっくりとじていただいたり昔話などをしたり、入浴の時間が楽しいものとなるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 入浴は毎日、利用者の希望に応じて柔軟に対応しながら楽しめるよう支援している。入浴の苦手な利用者については、家族の協力を得たり声かけを工夫するなどし、入浴したい気持ちになるように見守りながら支援している。浴槽の大きさがユニット毎で違うため、身体状況に応じて入り易い方で入浴している。浴槽台やシャワーチェア等福祉用具も整っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中は、個々の心身の状態に応じて休息を取れるよう配慮している。光・音・室温等にも注意を払っている。安心して眠れるような声掛・関わりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者全員の服薬説明書を綴じたお薬ファイルを作っており、スタッフが夜勤帯等の時間等を利用して、全員の服薬内容を理解できるよう努めている。服薬内容を理解した上でのケアを意識できるよう努めている。主治医との連携でも活かされている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で、自分の力が活かせる配慮・工夫を心がけている。「ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えるよう心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買物の希望がある時は、日程の調整は必要な時もあるが、本人が行けるように配慮している。地域の行事にも、少人数ではあるが、参加できるよう努めている。家族とのコミュニケーション・協力により、外出の機会が増えている人もいる。  (外部評価) お正月には初詣、秋には紅葉スポットへのドライブなど、季節ごとに外出行事を取り入れ利用者の気分転換や楽しみとなっている。また、誕生日の前後には1対1で希望する場所へ出かける取り組みも始めている。車椅子対応で多人数乗れる車を法人が購入予定で、今後さらに外出の機会を増やしたいと考えている。外出困難な利用者も、屋上に出て外気浴をして五感刺激を行っている。	誕生日の利用者に対して希望する場所への外出など、様々な形で個々の外出支援に取り組み始めているが、職員の人手に限界を感じている節がある。家族やボランティアなどの協力を得ながら、定期的なレクリエーションとして外出する機会を増やすことで、利用者の意欲向上やストレス発散などに繋がることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、ご本人了解のもと、ご本人で自由に管理している方もいる。買物の時にはできるだけ、自分で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を受ける場所を自室や事務所と、個々の状態に配慮し、ゆっくりお話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を飾り、自然を感じられるよう配慮している。テレビをゆっくりと見えるようテーブルの配置を変えたり、馴染みの方でお話を楽しめるよう席を配慮している。テレビをつけっぱなしにせず活動に応じた空間づくりに気をつけている。	
			(外部評価) リビングを挟み2つのユニットがあり、自由に行き来できるようになっている。リビングからどの部屋も見渡せるため、見守りがしやすい造りとなっており、利用者の安心とスタッフの効率性に繋がっている。屋上は開放的で眺めも良く、野菜作りや茶話会、気分転換などに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 馴染みのご利用者との関わり・会話が楽しめるよう椅子の配置に気をつけている。「安心できる自分の居場所」と感じてもらえるよう配慮している。居室内にも安全に配慮して椅子を置き、馴染みのご利用者同士で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談して、本人の馴染みの物を少しずつそろえていただいたり、安全に注意しながらも、できるだけ本人の思いに沿える部屋作りを支援している。家族の写真や本人の気に入ったポスター等を飾って、少しでも落ち着き馴染みの部屋になるよう支援している。	
			(外部評価) 居室にはベッド、ダンスが備え付けられており、家族に働きかけて使い慣れた馴染みものを持ち込んだり、家族の写真や孫の手作り作品等を飾ったりしている。使いやすさや安全面に配慮した居室づくりをし、自分の居場所として心地よく過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーになっており、歩行器での歩行が可能である。車椅子も自操して自由に行き来している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市米湊855番地11
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*歳を取っても、障害があっても、認知症になっても誰もが大切にされ安心して暮らせるグループホームを目指して人との関わりや会話を楽しめることを大切にしています。\*自分の力を発揮できる場や、楽しみを見つけることができるよう支援しています。\*ご利用者同士が馴染みの関係になれるよう、さり気なく支援できるよう配慮しています。\*ご家族や地域の方との繋がりを大切にしています。\*医療との連携を大切に、家族と相談しながらできるだけグループホームで穏やかに過ごせるよう努めています。\*季節を感じたり、自然との触れ合いを大切にしています。\*スタッフ皆で共に成長できるよう、助けあって学んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

9年前に伊予市の中心地に開設された事業所は、屋上から海を眺めることができ、家族や近所の方を招いて花火見物をしたり、近隣の農業高校の生徒と一緒にプランターで野菜を育てたりしている。近くには母体施設である医療機関があり、日常の健康管理や急変時にも安心できる環境が整っている。今年に入り管理者や職員の異動を含めた交代もあったが、「共に育つ」という目標のもと、管理者と職員が一丸となって、利用者の尊厳や自立を大切にしながら、居心地の良い事業所作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよB棟

記入者(管理者)

氏名 高橋 知子

評価完了日 平成 24 年 10 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を玄関やフロアー、A棟B棟掲示板に貼っている。理念を元に「共に育つ」を目標に掲げ、ご利用者・スタッフ共に笑顔で過ごせるよう、会議や朝のミーティング等の中で繰り返し確認して実践できうるように努力している。スタッフひとり一人も、自己目標を掲げ取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人の理念である「悔いの残らないお世話をさせていただきます」をもとに、「共に育つ」という事業所目標を掲げ、それに沿った個人目標を立てケアに取り組んでいる。ミーティング時に振り返りを行い、個人目標については随時管理者と一緒に評価を行いながら、日々のケアに反映させるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご近所の方への挨拶を心がけている。町内会や行事へもできるだけ参加している。事業所の入口に掲示版を置き、ご利用者の生活の様子をお知らせしている。掲示板を見た方や、散歩中出会った方に声をかけていただく。地元高校生のボランティアが定期的に訪れ、ご利用者との交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 道路に面した事業所の掲示板に行事写真等を張り出すことで、近隣とのコミュニケーションを図っている。自治会に加入しており、地域の情報は回覧板や運営推進会議等を通して得ることができる。町内の行事には積極的に参加するようにしているが、日常的な交流が一部の特定の利用者に限られており、事業所側からの積極的な働きかけを現在模索中である。</p>	利用者が共に暮らす地域の一員であることを理解してもらい、事業所を身近に感じてもらえるように、地域の人々を事業所の行事に招待するなど一層交流を持つ取組みに期待したい。災害時等における協力関係づくりにつなげることも望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議、行事・ボランティア等で気軽に入ってもらえる機会を作り、機会あるごとに認知症についての情報を提供し、認知症の理解に繋がるようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご利用者の生活の様子を写真やエ ピソードで伝えている。出席した方からは、地域の 様々な情報を頂いたり、地域の中でグループホームが 果たせる役割について助言を頂いている。意見や質問 については次回までに検討してお答えしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は民生委員や市職員、老人相談員、消防 士など様々な方に参加を呼びかけ、意見交換がされて いる。交替で職員が参加し、会議で得た助言を検討す るなどサービス向上に活かす努力をしている。議事録 が簡略化されているため会議内容の確認が難しいもの となっている。</p>	<p>わかりやすい議事録を作成し、参加できなかった関係 者にも会議の内容が理解され共有されることを期待し たい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には市の担当者が毎回参加してくださ る。その場でグループホームの様子を伝えている。月 に1度、グループホームの入居状況・待機者数を報告 している。市が開催する会議・研修についても積極的 に参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは運営推進会議で意見交換する以外にも、 日頃から電話等で質問や相談を気軽にできる関係がで きている。地域包括支援センターとは、センター主催 の研修会に参加したり、利用者家族の困難事例を相談 するなどいつでも相談できる良い関係が構築されてい る。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全体に対し、「身体拘束」について勉強会を行っ ている。認知症の理解や介護技術の向上が身体拘束を しないケアに繋がると考えている。身体拘束をしない ケアを目指して勉強会を重ねている。玄関はオート ロックになっているが、ユニットいよ内は、解放して いる。</p> <p>(外部評価) 定期的に職員間でマニュアルを見直し、身体拘束に関 する勉強会を実施するなど、利用者にとって自由な暮 らしとは何かについて職員間で常に話し合う機会を設 けるよう努めている。骨折後安静が必要な利用者に対 して、医師の指示のもと安全ベルトを用いて安全面の 確保を行った事例があるが、利用者や家族と話し合い 同意を得た上で実施した。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止についてのマニュアルを作成している。自主的な勉強会にて知識を得る機会も設けている。又日々のケアの中で気づいたことや困っていることを職員間で気軽に話合える雰囲気を大切にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在活用はしていないが、必要があれば相談に乗れるよう、相談機関の確認や制度についての勉強の機会は持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学時や入居前の面談時、契約時となるべく複数回にわたり説明をする機会を設けている。十分に契約書の内容を見ていただけるよう時間かけ、質問等にも丁寧に答えられる時間を設けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時・運営推進会議・ケアプラン見直し時等、個人のアルバムを見ていただいたり、職員が直接、ご利用者の様子や相談ごと等を伝える時間を取って家族からの要望等も聞きとっている。遠方の御家族にも電話で連絡・相談を行い、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 面会時に家族が話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。また個別に写真入りの面会ファイルを作成したりホームだよりを送付する等、利用者の様子を伝え家族から意見や要望を聴取するようにしている。今後は家族会の設置を検討しており、家族が意見を出しやすい環境作りに取り組む予定である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回の会議や、朝のミーティング等で意見を出している。意見・相談等は随時、ホーム長・管理者に言ってください、と日頃より伝えているので直接ホーム長・管理者に伝えてくれることが多い。必要に応じ部長又は職員間で検討している。	
			(外部評価) 日頃から管理者やホーム長、副ホーム長は「共に育つ」という目標を念頭に、職員の気持ちを理解し積極的に声をかけ、何でも言いやすい関係を築く努力をしている。法人の事務所が事業所の3階にあり代表者が訪れる機会も多く、また法人全体の管理者会が設けられているため、管理者や職員の意見をスムーズに運営に反映させる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者・ホーム長が職員の状態を把握し、職員個々がやりがいを持って向上していくよう常に部長・代表者とコミュニケーションを取りながら職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加したら勉強会を開いて職員間で共有するようにしている。個人の力量に合わせて日頃のケアの中でも相談を受けたりや介護技術の指導を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修時の機会を大切にしている。相互研修に毎年参加しており、研修後の勉強会を行い職員皆で共有している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談を丁寧におこない、入居に至るまでの本人・家族の心配や不安を確認して、入居までに解消できることは家族と十分に相談している。本人のこれまでの生活について情報を大切にしながらも、現在の本人の生活が安心できるものになるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や介護内容、家族の気持ちに配慮しながら十分にお話を聞く時間を取り、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当のケアマネージャーさんから詳しい情報を頂いて、一緒に検討して頂いている。家族等が直接申し込んで来られた時は、できるだけ時間を取って丁寧にアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔話や、子育ての話、地域の慣らわし等普段の話の中でも年長者としての知恵を教わっている。共同生活をする上で、ご利用者同士の人間関係が上手くいくよう助けていただいていることを感謝している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は本人にとってかけがえのない人である。本人を家族と一緒に支えているという気持ちを常に持ち、家族とのコミュニケーションを大切にしている。本人と家族それぞれの気持ちに配慮しながらも、お互いの関係を大切に思って支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人との会話の中で、連絡を取りたい人や馴染みの場所を知り、家族の協力も得て少しでも関係が保てるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者が大切にしてきた場所や人等について、家族から話を聴いたり、利用者との日常の会話から汲み取ったりしながら把握するよう努力している。商店街が近くにあり買い物や行事に参加した際に、馴染みの人から声をかけてもらうことも多い。家族の協力を得てお正月に外泊したり、知人が面会に来たりと入居前の馴染みの関係を継続させるための働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人と関わることを大切に思っている。気の合いそうな方が、馴染みの関係になれるようさり気なく支援している。ご利用者同士が馴染みの関係になることでグループホームがさらに安心できる場所になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、家族からの要望があればできる限り相談・支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時には本人の思い・家族の思いを丁寧に聴きとるようにしている。日々の暮らしの中でも、本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。家族と相談して少しでも実現できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は、表情から読み取ったり、日常の会話から汲み取ったりしながら把握するように努めている。重度化が進みコミュニケーションが困難になりつつある利用者は、どのような暮らしをしていきたいかを利用者本位に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に丁寧に聴きとるようにしている。入居後もセンター方式を利用して情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録、朝・夕の申し送り時の情報の共有、毎月のケアプランの評価、半年ごとのアセスメント更新により情報の把握と共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が毎月の評価を行い、ケアプラン作成時も参加している。家族には面会時、遠方の方は電話等で日々の生活の様子や課題、要望等について連絡・相談することを大切にしている。主治医とも連携して意見を頂いている。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は、日頃の関わりの中から十分に把握し、家族からは面会時に聴取し介護計画に反映させている。計画は、毎月のカンファレンスで見直しを行いながら、常に利用者本位の計画になるよう留意している。また、介護目標等を日々の記録の中に明記することで、いつでも確認でき日々のケアに活かすことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録にケアプランの要点入れて、毎日ケアプランを意識できるようにしている。1ヶ月の記録を見直してケアプランの評価をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人にとってよりよい支援、家族の要望を支援する為に、家族と何度も相談して柔軟な支援ができるよう対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の理容室の散髪ボランティア、民生委員・老人相談員の方から地域の行事の知らせや誘いを受け参加している。(地区の避難訓練・サロン活動・散歩時の挨拶や会話)	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族が受診に同行できない時は、前もって現在の状態 等について家族と情報交換し、家族の意向も十分に把 握するようにしている。家族のみの受診時には、日常 の生活ぶりや状況の変化等について文章にし、家族に も確認して頂き、主治医との連携に努めている。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続したり、協力機関からの 往診を受ける等、利用者や家族が希望する医療機関に 受診できるように対応している。受診支援は原則家族 に依頼するが、必要に応じて事業所が対応する場合も あり、受診内容については必ず家族と共有するよう にしている。訪問歯科診療も受けており、定期的に歯科 衛生士による口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の気づきや情報は、申し送り時やケアノートで共 有している。訪問診療時は、十分に時間を取っていた だき看護師・主治医と情報交換している。	
			(自己評価) 入院時は、十分な情報を提供し、入院後も家族・看護 師・主治医との連携を大切に考え、病院に出向いた り、電話で、ご利用の様子を伺ったり、ご家族の意 向を確認して情報交換している。退院時は、病院に出 向き、退院時の情報提供を直接受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居時に重度化した場合のあり方についてご家族の意 向を聞くようにしている。その後も、状態に合わせて 主治医との連携を大切にし、主治医と家族と事業者が 十分に話合える機会を大切にしている。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期の対応について、看取りの指 針をもとに契約の際に利用者や家族へ説明している。 今まで看取りの希望者がなく終末期ケアの経験はない が、今後に備え外部研修に参加するなど準備をしてい る。	終末期ケアについては不安に感じている職員も多い。 母体施設である医療機関や法人内の他事業所での事例 を活用して勉強会を行うなど、少しでも不安が解消で きるよう今後の取組みに期待したい。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化した場合のあり方についてご家族の意 向を聞くようにしている。その後も、状態に合わせて 主治医との連携を大切にし、主治医と家族と事業者が 十分に話合える機会を大切にしている。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期の対応について、看取りの指 針をもとに契約の際に利用者や家族へ説明している。 今まで看取りの希望者がなく終末期ケアの経験はない が、今後に備え外部研修に参加するなど準備をしてい る。	終末期ケアについては不安に感じている職員も多い。 母体施設である医療機関や法人内の他事業所での事例 を活用して勉強会を行うなど、少しでも不安が解消で きるよう今後の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の研修は順次参加している。研修内容を職員間で共有している。緊急時対応マニュアルを見て職員が直に対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を、消防所・市役所・地域の方の指導・協力・意見を頂きながら行っている。運営推進会議では防災についての意見交換も頻繁に行っている。日頃よりご近所の方とのコミュニケーションを大切にしている。グループホームの様子を理解して頂いている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練を実施している。運営推進会議の中で地震や津波を想定した避難訓練を実施したり、議題として取り上げ話し合いを行うことでどの職員も防災を常に意識している。また、地域も防災に力をいれており、様々な助言を得ながら適切な対応を検討している。水や米、乾パン等の備蓄や笛、メガホンなども準備している。	近隣住民に事業所の実情を知ってもらう機会を設けることで、災害時の協力体制作りに繋がることを期待したい。また、全職員で共有するために災害ごとの対応マニュアルの整備も望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者が安心して笑顔多く過ごせることを目指し、職員皆で接遇について学んでいる。まずは職員全員が笑顔で気持ちの良い挨拶ができることを目標にしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら、その人に合わせた声かけやケアをしている。また個別ケアファイルを活用し、利用者の状況を随時確認して、全職員が利用者の人格を尊重できるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の話に耳を傾けるようにしている。その中からご利用者の思いや希望を聞き取るようにしている。ご利用者によって選択肢を配慮し「選択する」機会がより多く持てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の声をよく聞くようにしている。また、声の裏にある気持ちも察しながら、本人の希望を押し量って支援している。できるだけ、安全に注意しながらも、ご利用者が自分のペースでできるようゆとりを持って見守っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時など特別な日の装いは、ご本人の希望も聞きながらご本人が笑顔になる装いを一緒に選んでいる。定期的にご本人の希望も聞きながら、ネイルカラーのお手入れを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々のメニューについて皆で確認して楽しみにしている。好みを聞き、行事食などに取り入れている。野菜の皮むき・台拭き・お盆拭き・食器洗い等、できることを一緒にやっていただく機会を大切にしている。必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。	
			(外部評価) メニューに偏りがなく栄養面のバランスを考えた食材の宅配を利用している。近隣住民や家族から届けられた季節の野菜等をメニューに加えることもある。利用者個々の力を活かしながら準備や後片付けを一緒にすることで、利用者自身の自信や張り合いに繋げている。誕生日などの行事食も取り入れ、食事に楽しみが持てる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の食事量、水分量が分かるように記録にも工夫している。個々の食べる量、食事の形態にも配慮し、食べている様子を常に把握している。食事療法が必要な方は主治医に相談しながら進めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 昼・夕は必ず口腔ケアを個別に行っている。朝食後も臥床する方は必ず行っている。訪問歯科診療にて全員の方の口腔内を見て頂いている。必要な方は、その後も継続して専門的なケアを受けている。定期的な歯科衛生士の訪問により、スタッフも口腔ケアについて勉強している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) できるだけ、トイレでの排泄ができるよう、声掛・誘導している。状態を見ながら昼間はオムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへと変えて過ごせるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者ごとに排泄チェックを行い、排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。排泄方法については、朝のミーティングやカンファレンス等で話し合いながら、利用者一人ひとりに応じた適切な方法を検討している。居室でポータブルトイレを使用する場合には、直接人の目に触れないように布を掛ける等の工夫をし利用者の尊厳を大切にしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便チェック表を作り、排便の状態が直に把握できるようにしている。医師・看護師に相談しながら、個々の状態に応じて、水分量・食事内容・運動・服薬等を配慮している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日、朝から16時頃まで入浴の時間を取って、個々の体調や状況に応じてゆっくりと入浴して頂いている。服の着脱や入浴動作もできることはゆっくりとじていただいたり昔話などをしたり、入浴の時間が楽しいものとなるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 入浴は毎日、利用者の希望に応じて柔軟に対応しながら楽しめるよう支援している。入浴の苦手な利用者については、家族の協力を得たり声かけを工夫するなどし、入浴したい気持ちになるように見守りながら支援している。浴槽の大きさがユニット毎で違うため、身体状況に応じて入り易い方で入浴している。浴槽台やシャワーチェア等福祉用具も整っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中は、個々の心身の状態に応じて休息を取れるよう配慮している。光・音・室温等にも注意を払っている。安心して眠れるような声掛・関わりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者全員の服薬説明書を綴じたお薬ファイルを作っており、スタッフが夜勤帯等の時間等を利用して、全員の服薬内容を理解できるよう努めている。服薬内容を理解した上でのケアを意識できるよう努めている。主治医との連携でも活かされている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中で、自分の力が活かせる配慮・工夫を心がけている。「ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えるよう心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買物の希望がある時は、日程の調整は必要な時もあるが、本人が行けるように配慮している。地域の行事にも、少人数ではあるが、参加できるよう努めている。家族とのコミュニケーション・協力により、外出の機会が増えている人もいる。  (外部評価) お正月には初詣、秋には紅葉スポットへのドライブなど、季節ごとに外出行事を取り入れ利用者の気分転換や楽しみとなっている。また、誕生日の前後には1対1で希望する場所へ出かける取り組みも始めている。車椅子対応で多人数乗れる車を法人が購入予定で、今後さらに外出の機会を増やしたいと考えている。外出困難な利用者も、屋上に出て外気浴をして五感刺激を行っている。	誕生日の利用者に対して希望する場所への外出など、様々な形で個々の外出支援に取り組み始めているが、職員の人手に限界を感じている節がある。家族やボランティアなどの協力を得ながら、定期的なレクリエーションとして外出する機会を増やすことで、利用者の意欲向上やストレス発散などに繋がることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、ご本人了解のもと、ご本人で自由に管理している方もいる。買物の時にはできるだけ、自分で支払えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を受ける場所を自室や事務所と、個々の状態に配慮し、ゆっくりお話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を飾り、自然を感じられるよう配慮している。テレビをゆっくりと見えるようテーブルの配置を変えたり、馴染みの方でお話が楽しめるよう席を配慮している。テレビをつけっぱなしにせず活動に応じた空間づくりに気をつけている。	
			(外部評価) リビングを挟み2つのユニットがあり、自由に行き来できるようになっている。リビングからどの部屋も見渡せるため、見守りがしやすい造りとなっており、利用者の安心とスタッフの効率性に繋がっている。屋上は開放的で眺めも良く、野菜作りや茶話会、気分転換などに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 馴染みのご利用者との関わり・会話が楽しめるよう椅子の配置に気をつけている。「安心できる自分の居場所」と感じてもらえるよう配慮している。居室内にも安全に配慮して椅子を置き、馴染みのご利用者同士で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談して、本人の馴染みの物を少しずつそろえていただいたり、安全に注意しながらも、できるだけ本人の思いに沿える部屋作りを支援している。家族の写真や本人の気に入ったポスター等を飾って、少しでも落ち着き馴染みの部屋になるよう支援している。	
			(外部評価) 居室にはベッド、タンスが備え付けられており、家族に働きかけて使い慣れた馴染みものを持ち込んだり、家族の写真や孫の手作り作品等を飾ったりしている。使いやすさや安全面に配慮した居室づくりをし、自分の居場所として心地よく過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーになっており、歩行器での歩行が可能である。車椅子も自操して自由に行き来している。	